

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
 第108回放送の概要 (2016年1月30日放送)

<p>パーソナリティ</p> <p>さくら (安本久美子)</p> <p>たろう (佃 由晃)</p> <p>なか (中嶋邦弘)</p> <p>かりん (妹尾優香)</p> <p>あな (岸本幸恵)</p>		<p>ミキサー</p> <p>門ちゃん (門田成延)</p> <p>相談役</p> <p>わだかん (和田幹司)</p> <p>会計</p> <p>小山俊則</p>
--	--	---

(CM) 神戸を代表する本格中華料理の名店、神仙閣神戸店は、昭和9年の創業から今もなお、神戸の地で愛され続けており、繊細な味わいと中華の伝統スタイルを継承しながら、華やかな北京料理を提供させていただいています。

神仙閣神戸店で、同窓会、披露宴は勿論、クラス会、祝勝会などの会合に是非ご利用ください。本日は神仙閣 神戸店様、(電話050-5789-6080)のご協力を頂きました。

(CM) 神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさと安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供する、ペリーヌタクシー様 (電話078-521-0046)の御協力を頂きました。

1. ゲストコーナー(1) 賀川記念館館長 友愛幼稚園園長 馬場一郎さん(64 陽会)

馬場さんは兵庫高校ではラグビー部に所属し、ポジションは7番フランカーで、成績は3年生で県のベスト4になった。ミキサーの門ちゃんもラグビー部で、当時は常勝兵庫と言われ、近畿大会、国体予選全てに出場した。村工に抽選負けし全国大会にはいけなかった。神戸高校との定期戦では40-0で勝っていた。

高校3年生の12月までラグビー漬で浪人し、コロンビア予備校で勉強し同志社大学にすすみ、卒業後銀行に就職したが仕事が肌に合わず、2年間で退職した。YMCAの募集記事を見たのがきっかけでYMCAに勤めることになった。キリスト教団体のため教会を紹介され、日曜日の礼拝に行くよう勧められたが熱心ではなかった。YMCAの募集内容は小豆島の余島キャンプ場の管理で、余島に1年間赴任した。その後神戸YMCAの大学予備校に移り、10年程勤めたのち西宮ランチに変わり、トータル19年間

YMCAに勤めた。

余島では夏は子ども達のキャンプ場、年間を通じてオープンしている余島センターという宿泊施設の運営、接客をした。ヨットに乗り、ボートの免許も取り、キャンプの仕方も習得し楽しい時間であった。予備校は当時は全盛期で生徒が多く、自分も予備校生の経験もあり、生徒を1年間預かり目標の大学にどのように合格してもらうかが仕事であった。生徒数は最大で900人（浪人生）、現役生を含むと1000人以上の生徒が学んでいた。教科は講師の先生が教え、馬場さんはクラス担任で、出席管理、メンタルケア、進路指導などをしていた。西宮ランチに移り、予備校及び高校生科の運営を担当し、悩める生徒に1年間関わるのはやりがいがあった。

西宮に赴任した翌年震災があり、当時予備校は下火になり運営が厳しくなっていた。大阪教育大学の竹田契一先生のアドバイスをもらい、当時学習障害児のクラスの立ち上げを手伝った。その過程で予備校時代にサボっている生徒のことを思い出し、「頑張って勉強しなさい」と言っていたが、もしその子に学習障害があったら、と思い今までの価値観が崩れた。その後2003年に西宮市に待機児童が多くいることを知り、保育園を立ち上げた。

YMCAを辞めた年の4月に受洗をし、社会福祉法人イエス団に勤めていた先輩から声がかかり、法人の本部に勤めることになった。イエス団は1909年に神戸が生んだ賀川豊彦が、当時の貧しい人たちの住む街に入り、救済活動を始めたのが始まりで、当初は救霊団という名であった。友愛幼稚園は1935年に設立されたが、その後1951年に社会福祉事業法が設立した時に社会福祉法人立になった。賀川豊彦はそのような制度のない時に、地域で貧しい人たちの救済する福祉の仕事をしたのである。

賀川豊彦は、生協（コープこうべ）を始め、多くの事業を先駆けて取り組まれた人だが、賀川豊彦が活動を開始したのは、目の前の子ども達、目の前の人達一人ひとりを救済する活動を一人でやり始めたものである。ここが一番共感するところで、馬場さん自身の原点と感じている。

当時、子どもを産んだが育てられない親から、いくばくかの養育費を貰って育てるといことが行われていたが、結局育てられずに餓死するという事件（貰い子殺し）が起きていた。賀川豊彦はその子たちに支援の手を差し述べたことが記録に残っており、目の前の子どもを救いたい、ということが賀川豊彦の基本にある、そこが馬場さんの一番共感するところで、自身の原点と感じている。その時の気持ちを賀川豊彦は「涙の二等分」という詩に綴っている。赤ちゃんの名前は預かった時に石を握っていたので「おいし」と言った。



「涙の二等分」より抜粋

おいしが泣いて目が醒めて
お襦袢（しめ）を更えて乳溶いて

椅子にもたれて涙くる
男に飽いて女になって
おいしを捨ふて今夜で三晩夜昼なしに働いて
一時ねるとおいしが起こす
…………… 略 ……………
おいしを抱いてキッスして、
顔と顔を打合せ
私の眼から涙汲み
おいしの眼になすくって……………
あれ、おいしも泣いてゐるよ
あれ神様
あれ、おいしも泣いてゐます！

2. ミュージック：「風」はしだのりひこ 作詞：北山修 作曲：端田宣彦

馬場さんの中学時代の担任の先生がとても好きで、毎日皆で歌っていた曲です。馬場さんもとても好きで落ち込んだ時には「風」を聞いて元気を貰っています。



3. ゲストコーナ (2) 馬場一郎さん、柏原かおりさん (72 陽会)

賀川記念館が行っている各種活動のベースとなる考え方は、賀川豊彦は制度のない時代に、目の前にいる人を支援する活動を開始した。今は社会福祉制度のもとで、保育園や高齢者施設の運営などが多く行われているが、制度から漏れ、見逃されている部分があり、賀川豊彦の働きを継承し、そのような人々に気付き、目を止めていくことで支えになっていきたい。そのような事を常に頭に置き仕事をしている。



友愛幼稚園 学童保育：友愛幼稚園の卒園生が、放課後預かってもらえる所がないことに気づき、賀川記念館が引き取り学童保育を始めた（神戸市第 1 号）。対象は今では小学生の低学年（1～3 年生）がメインになっている。今保育園は朝 7 時から夜 7 時まで預かってもらえるようになっている。小学校に入ると預かってもらえる所がなくなり、学童保育の制度がはじまった。

友愛幼稚園 放課後等デイサービスくっく（くじらぐもクラス）：障がいのある子どもが学童保育に来たいという希望があり、人数が増え学童保育の中で預かるのは難しくなってきたので、障がいのある子ども達の面倒を放課後みる取り組みを始めた。当時は日中一時支援と呼んでいたもので、賀川記念館は制度のない時に始めた。くじらぐもはクジラのような雲という意味で子ども達が付けた名前。現在この事業の登録は6人で支援学校が終わると迎えに行き、連れてきて一緒に部屋でほぼマンツーマンに近い形で対応している。

児童発達支援事業 くっく：友愛幼稚園にくる子どもたちの中に、輪に入れない気になる子がいる。集団生活が基本の保育園にはなじめない子どもの支援のためにこの事業を始めた（2012年）。就学前の子どもが対象で、早期のトレーニングをすることで効果が高くなるので、幼稚園に通いながらこの事業で個別指導と集団指導を行っている。児童の苦手、得意な事を把握、指導し、いい所を伸ばし、弱い所を平均値に持っていけるように取り組んでいる。午前中のクラスは親子で行っており、先生からの指導をお母さんにも体験してもらい、学んでもらうことで日常生活の中に取り入れてもらえるようにしている。YMCAの西宮ランチで同じようなクラスの立ち上げに関係し、早い段階から対処することが大事という経験が役立っている。今はいい指導者に恵まれている。

外国にルーツを持つ子どもの学習教室「はいず」：地域福祉ネットワーク会議で取り上げられた課題で、地域の民生委員から、外国籍の保護者と子どもに関する事で、子どもが勉強についていけない、学校から持ち帰る連絡文、案内文が理解できない、ゴミの捨て方がわからないなどの課題のうち、賀川記念館でお手伝いできるものとして、外国にルーツを持つ子どもの学習教室「はいず」（注：はいずは中国語で子どもの意味）を立ち上げた。中央区は神戸市では中国人が一番多く、幼稚園も138人中1割が中国の子どもである。子どもは生活言語を覚えるのは早いですが、学習言語を覚えるのは難しい。

YWCAで日本語講師をしている柏原さんは、日本語の話し方について賀川記念館に協力している。勉強する時の日本語は難しい。友達とは話せるので学校の先生も見逃してしまう。YWCAでは来日した時に集中的に教え、その後はサポートをしている。友愛幼稚園では保護者とコミュニケーションがとれないことがあり、その場合スマートフォンを片手に翻訳しながら行っていた。YWCAからやさしい日本語を学ぼうという提案があった。「やさしい日本語」とは、シンプルで外国人にもわかりやすい日本語を使おうということ。方言や語順が変わると外国人にはわかりにくくなる。保育を担当している人に講座を受けてもらった。保育士の意識が変わり、わかりやすく丁寧に日本語を話し、伝え方を変えるようになった。しかし子どもの成長に関わる深い話はむずかしい。

はいずは2013年から開始し、当初2人が今は16人（中国及び東南アジアからの来日）に増え、元小学校の先生が講師で、神戸大の中国からの留学生がボランティアで参加している。中国からの子どもが中国語で話ができる、楽しい居場所になっている。

子どもの学習支援と居場所作り：賀川記念館は天国屋カフェ（注：天国屋は賀川豊彦が始めた一膳飯屋の名前、栄養のある食事を安価で提供したが、無銭飲食が多く、3カ月で倒産した。）を、100年後に復活させ、木、金、土のランチをワンコインで、第3金曜日の夜に飲み食い出来るナイトカフェを開き、

食事、飲み物提供の他、地域の方がいろいろな出し物をして楽しんでいる。いろいろな方が来てくださり、それぞれにとって良き居場所になっている。

関わっている子どもたちの中で、一人親家庭等で子どもたちとの時間をなかなか持てない家庭もあり、その子ども達に色々な環境を体験してもらいたいということで学習支援と月一回の休日プログラムで、生活技術、人間関係、家とは違う環境を体験するプログラムを始めた。家庭の状況は表面的にはなかなか見えず朝ごはんを食べていない、風呂に入っていない、親が子どもに関わっていないなど・・・こういう環境を断ち切る必要があると考えている。

賀川豊彦氏の生涯については、劇画「死線を越えて」が大変お勧めです。賀川記念館でお求めください。



4. 地域瓦版

- ①BS - TBS で、最後の官選沖縄県知事、島田叡(あきら)さんを、描いた報道ドラマ「生きろ」の続編ドキュメンタリー番組が放送されます。1月31日(日)18時00分～18時54分 BS6ch(BS-TBS)
70年目の島守 ～生き続ける“最後の沖縄県知事”～

戦後70年を経ても、今も人々の心に生き続ける「島守」島田叡さんと警察署長の荒井退造さん。受け継いでいこうとする後輩たち。沖縄戦末期、彼らが県民に「生きろ」と言い続けたのは、なぜだったのか。どこで、何をしようとしていたのか。70年目の二人の姿を追います。

- ②音楽の話題です。2月21日に、神戸文化ホール主催の吹奏楽団が誕生します！

神戸プラスコレクション演奏会、2月21日(日)開場 14時15分 開演 15時、神戸文化ホール、大ホール、一般前売り 1500円 一般当日 2000円 学生 500円、神戸ゆかりの第一線で活躍のプレイヤーと若手プレイヤーで構成される、神戸の力を結集した夢の吹奏楽。

指揮者：兵庫高校吹奏楽部 元顧問 松井隆司さん

ソリスト：サクソフォン奏者 井上麻子さん

コンサートミストレス：小谷口直子さん(クラリネット)、津村美妃さん(サクソフォン)、
山下真理子さん(サクソフォン)

ゆかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>